
運命の人じゃなかった。。。

チャイルドキャプター

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

運命の人じやなかつた・・・

【Zコード】

Z6984B

【作者名】

チャイルドキャプター

【あらすじ】

18年間一緒に幼なじみだったゆかと篤志。^{あつし} ゆかは篤志に告白するが、結果は駄目。10年以上経つて大人へと進歩したが、ゆかは篤志への思いは変わらない。果たしてゆかはどうなるか??

第一話 愛してると好き

「愛してると。」

私は篤志を呼び出した。それから恋の大発言……ちょっと口がもじつてうまくいえなかつたけど

・・言おう言おうとしていた緊張感から開放され、やつと言えた――

といつ達成感がでてきた。

頑張つて篤志の顔をみた。なんと言ひのいか困つた顔だ。でも18年間幼なじみの私なら絶対〇Ｋだらう・・。とおもつたけど、答へは・・

「駄目。」

一瞬心臓がバツクン……とした。それから背中からすくと又緊張感が漂つた。

「ゆかは本当に俺を恋愛相手とおもつてんのか??」
いきなり、口を閉じていて篤志からの質問。

「はあ！？そつ・・・」

「愛してると好きはちがうつものだ。」

否定する前にこんなこと言われ、目がにじんで言葉がでこない・・。

とまどこも無く『NO』。愛してるとじゃなくて『好き』。頭がクラクラする。手をぐつと握つて心が爆発したよつて、考えるすべての事が不能になる。

「じゃあ・・あんた私の事ビーナもつての?・?」

「・・・。」

「ねえ!・・・」

篤志のワイシャツをおもいつきつ握る。

「・・・『めん。』

「『めん』じゃなくて!・・・どうおもつてんだよ!・・・」

何回もワイシャツをゆすつた。ワイシャツはぐれまがれになつて

しました。

けど、篤志は何もいつてくれなかつた。

第一話 幼なじみの絆

篤志に告白して一夜が去った。

どうあいつに信じてもらえるか悩んだ。

篤志のいえは私の家の斜め左前でレンガズクリの洋風の家だ。

私が生まれる前に篤志の家族が越してきた。

そして私たちがうまれた・・。

要するに私たちは幼なじみで18年間一緒に生きたのだ。 そんで同じ陸上部に所属。

でも付き合ってくれなかつた・・。

「愛してるじゃなくて好き・・か。」

ベットから起き上がって長方形の縦長い鏡に自分の姿が暗く写つた。まじまじと自分の姿をみつめる。

少し昨日見たときよりも疲れ顔と云うのが細くなつてしまつたようだ。おもえる。

「篤志・・」

ちよつと小声で呼んでみる。絶対あいつには聞こえるはずはないが・、返事をしてもらいたかつた。あいつはなぜこたえてくれなかつたのか・・。考えるだけで心がキリキリと音を立てた。これからどうやって篤志と向き合つか・・。

今日は朝練があつて篤志にあわなければならぬ。

学校につくと篤志は誰よりも早く練習をしていた。

さすがにヒースは早く、女子サッカー部が見とれてい。

篤志と目が合つた。すぐさま違う方向に向く。

篤志は何も無かつたようにランニングをつづけている。なんと無関心な奴だらう・・。

私はこんなにもなやんでいるの・・。

愛してると好きの違ひなんてまったくわからない。

逆に、どうせ同じだとおもつ。

でも、この時。私は運命的に諦めなきや いけなかつたのかもしけない。

あと10年後篤志は私じゃなくて他の運命の人と結婚することになつた。

その運命の人もまさか篤志だとはおもわなかつただろう・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6984b/>

運命の人じゃなかった‥。

2011年1月12日03時38分発行